

文教厚生委員会会議録

- 1 期 日 令和5年3月6日(月)
- 2 会 場 第3委員会室
- 3 開会時刻 午後1時10分
- 4 閉会時刻 午後1時23分
- 5 出席者 委員長 嶺岡慎悟 副委員長 窪野愛子
委員 二村禮一 委員 勝川志保子
" 橋本勝弘 " 山田浩司
" 高橋篤仁
事務局出席者 議事調査係 平川 陽
- 6 審査事項
- 7 会議の概要 別紙のとおり

以上のとおり、報告いたします。

令和5年3月6日

市議会議長 松本 均 様

文教厚生委員長 嶺岡 慎 悟

議 事

午後1時10分 開議

○委員長（嶺岡慎悟） ただいまから、文教厚生委員会を開会いたします。

発言の際には、挙手の上、委員長の許可を得てから、自席のマイクのスイッチを入れて、発言するようお願いします。

それでは、「物価高騰に伴う給食費への財政措置を求める意見書について」を協議事項とします。先日委員会で出た意見、提出いただいた意見書案を基に意見書案を作成しました。配布してありますので、皆さんからご意見をお願いします。

皆さんから意見の中で、子育て支援の話と自治体間格差の話が出ました。理由としてははっきりするということで。勝川委員から、意見書の案を提出していただきました。それを踏まえながら、修正しました。勝川委員からも修正をいただいています。皆さんそれぞれいろんな考えがあると思います。これは、それぞれの考えを尊重したいと思っています。勝川委員としては、給食費は無償化するべきだという考えに基づいて、考えがあるかと思っています。もちろん、それを否定するわけではないんですけれども、給食費のことをどう考えるかというときに、義務教育だから当然無料だという議論だと、違う議論になってきってしまうということもありますので、勝川委員がつくられている案の中で、食育などの言葉は、いれないような形の案にさせていただきます。

学校給食費ということで、先ほどの義務教育の件もありましたが、今回は子育て支援という意味では、幼稚園や保育園ということも踏まえて、県へ言いたいということもあり、学校と固定してしまうと子育て支援という名目、物価上昇しているという中で意見書を出したいなというところがあったので、あえて学校という言葉は、抜いているとご認識いただければと思います。

そのあたりを踏まえて、勝川委員からの意見も取り入れながら、前回よりはコンパクトにしたつもりです。こういった形で修正しております。もう1回読み上げさせていただきます。

物価高騰に伴う給食費への財政措置を求める意見書（案）について

提案者 文教厚生委員会

ウクライナ情勢に端を発した物価高騰は、県民生活にも大きな影響を及ぼしている。令和4年度においては、県内ほぼ全ての市町が国の地方創生臨時交付金を利用して学校給食食材費補填を行い、保護者負担なく物価高騰分を賄った。しかし、令和5年度においては、国の地方創生臨時交付金も今のところ決定がされておらず、食材費高騰による給食費や保護者負担の値上げの有無については、県内自治体で大きく判断が分かれ、自治体間格差が生じている。

また、少子化が想定を大きく上回るペースで進行し、子育て支援の重要度が増す中で、物価高騰の影響を大きく受けている子育て世帯の負担を軽減していく施策が求められている。

川勝平太知事は今年の新春記者会見でも、公立小中学校の給食費の助成拡充を検討する旨の発言をされている。しかし、静岡県の令和5年度予算案には、学校給食費への支援予算は計上されていない。静岡県の未来を支える子どもたちに安心して質の高い食環境を提供し続けるため、以下要望する。

1 給食費の物価高騰分について、県内市町への財政措置を行うこと

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

提出先 静岡県知事 川勝平太 様

という形で、修正をさせていただいております。皆さんから意見を頂ければと思いますけれども。

勝川委員。

○委員（勝川志保子） 私からも修正案を出させていただいております。食育や無償化を外したいよということで、そこのところはそれで一致ができるのであれば、私は意見書を出すことを重視したいので、委員長の方に沿った形でけっこうです。

ただ、給食費という言い方のところで、学校給食でない幼児のところは、無償化の一步が入っているわけです。ですから、それこそ無償化されている部分がある。幼稚園、幼児のところの給食費は、主食費という限定をつけながら。学校給食は、学校給食法という法律の規定の中で食材費が保護者負担だという規定を持っていて。今回、その規定により保護者負担が生じているということで、ここが問題になっている。わざわざ、給食費と変

える必要はない。幼児の部分は入っているんです。もっと上段階で給食の無償化が行われている。今、問題になっているのは、学校給食の部分。だから、川勝知事も公立小中学校の給食費の拡充と言及したわけです。今、全体としての流れの中で、今、給食費でなく学校給食費といっているのは、そういった理由になると思います。そこは、わざわざ抜いても意味がよくわからなくなる。無償化されている部分。補填するべきは、学校給食費だと思います。

○委員長（嶺岡慎悟） 財政的に見ると今年度の補正でも私立保育園にも、千万円以上支出している。いい金額感かなと思っている。そこは、無償化されている部分がありますが。そこそこの部分が絡んでくるかなというところもあって。学校という言葉も入っているので、入れてもいいのかなと思いつつ、そのあたりは、学校を抜いたほうがそのあたりも踏まえらるかなということではしています。ところどころ、学校が入っているのでどっちがわかりやすいかというところでもいいかもしれない。今日のニュースでも東京都で無償化がどうか、自治体間格差があるから国がやるべきだとかという無償化のニュースとか、それも学校の話だと思いますが。

その点でも、また皆さんからご意見を頂ければと思います。

山田委員。

○委員（山田浩司） 前回意見を言わせていただいた関係で、ここでも意見を言わせていただきます。基本的に委員長意見に賛成です。文章が大変わかりやすくなり、理由も明確になったと感じています。1点聞きたいことです。県からの税制措置を物価高騰分、給食費の物価高騰分についてといった場合は、各市町で給食費の値段が違いますが、この財政措置はどういう風にお考えですか。

○委員長（嶺岡慎悟） 前回も話がありましたが、基本的には県に任せるんですけれども、自分の感覚では、一人当たり一食。市に何人子どもがいるので、県としての平均の物価上昇率を県が把握しているはずですので、その平均の物価上昇率を平均の給食費にかけて、その金額を分配するような形がいいのではないかなと思っています。

そこまでは、言及しないです。自治体によって給食費も違うし、物価上昇率も違います。なぜこんなに違うのかと思うほど違います。そこは統一しないで、市がこれだけ上がって

いるからとそれぞれ、やってしまうと市によって差が出てしまうのは、おかしな話なので。そこは県が平等にやるような形かなと思っています。

窪野副委員長。

○副委員長（窪野愛子） 勝川委員、嶺岡委員長が考えて手直しされて、私はこれで結構だと思います。

○委員長（嶺岡慎悟） 学校はどうでしょうか。タイトルと中。タイトルと1のところに学校という言葉を入れるかどうかということになりますけれども。これでわかるはわかると思いますが。なくてもわかるとは、思うんですけれども。幼稚園の子ども達も含めたいなど、特定しないようにつくったつもりです。

よろしいでしょうか。学校だけにするかどうかは、県の判断ということで。両方できるように。本当にやってくれるかはわからないですけれども。今国の方もニュースでも5兆円の予備費をどう使うか。物価高騰に回すかどうかと言っていました。あれがどういう風になるのかなとは思いますが。給食費の話題はその中には出てきていませんでした。それがどうなるかは注視していきたいと思っています。県の方はこういったことで要望していくことはいいと思います。

よろしいでしょうか。ではこのままのとおり、明日の議会運営委員会に出させていただきます。

では、明日の議会運営委員会へ出させていただきますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との発言あり）

では、そのほか何かあるでしょうか。それでは、文教厚生委員会を終了します。

午後1時23分 散会